

筑波大学世界遺産専攻セミナー

「世界の敦煌！」

—敦煌莫高窟における保護と活用の両立を考える—

敦煌研究院 副院長

趙 声良

「敦煌莫高窟の鑑賞入門」

—北魏時代から唐時代—

筑波大学世界遺産専攻 教授

八木 春生

日時 2018年5月20日(日)

13時から16時

会場 筑波大学東京キャンパス

文京校舎 119 講義室

※事前申込 不要



東京都文京区大塚 3-29-1

丸ノ内線 茗荷谷駅下車「出口1」

徒歩5分程度

「世界の敦煌！」

—敦煌莫高窟における保護と活用の両立を考える—

筑波大学世界遺産専攻では、この度敦煌研究院副院長の趙声良氏をお招きし、現在敦煌莫高窟が直面する様々な問題についてお話し頂きます。趙声良副院長は、成城大学で博士号を取得し、敦煌莫高窟研究の第一人者であります。

敦煌莫高窟は、前秦の時代(366年頃)から元時代まで1000年に亘り造営がなされました。総数は700窟を超え、中に素晴らしい壁画や塑像を有する窟が492窟あります。雲岡石窟や龍門石窟とともに中国三大石窟と称されますが、1987年に世界遺産にいち早く登録され、三大石窟の中でも別格の存在です。

世界各地から訪れる観光客は夏季には1日7000人を超えと言います。多くの人々にその美しい壁画や塑像を見て頂きたいと思う反面、後世に伝えていくため、その保存や保護についても考えていかなければなりません。

現在、敦煌莫高窟で具体的にどのような問題が生じ、それを解決するための保護、保存のための活動、また国際協力の現状、さらにこれから世界に向かってその美術の素晴らしさを発信していく計画などについて、敦煌研究院の最新の取り組みを詳しくお話しいたします。

なお、趙副院長の講演の前に、筑波大学世界遺産専攻教授の八木春生が、「敦煌莫高窟の鑑賞入門」と題して、敦煌莫高窟の南北朝時代から唐時代の壁画や塑像についての概説を行います。

日時 2018年5月20日(日曜日) 13時から16時
場所 筑波大学東京キャンパス文京校舎 119講義室
(入場無料・事前申込不要)

